

事業評価書（事後評価）

1 政策評価の対象とした政策

正倉院宝物再現模造全国巡回事業（事業評価）

2 担当部局名

正倉院事務所

3 評価の実施時期

令和2年度～令和3年度

（令和3年度は中間報告書を公表した上、引き続き評価を実施し、令和4年度に評価書を公表する。）

4 政策の目的等

（1）目的

正倉院宝物を忠実に再現した「再現模造」を2年間で全国8か所の会場で展示することにより、日本文化の伝統を継承することの重要性とその意義について紹介するとともに理解の向上を図る。

（2）必要性と背景

正倉院宝物は、製作から1260年ほど経過しており、ぜい弱化が相当程度進行しているため、適切な修理を施したものであっても、移動のわずかな振動や長期間の展示等に耐えかねて崩壊する危険をはらんでいる。また一部の染織品などは修理もままならない状態となっている。そのため、秋に奈良で開催される「正倉院展」で比較的状态が安定した一部の宝物を展示する以外にはほとんど公開されていなかった。

このような中、正倉院宝物を忠実に再現した「再現模造」を積極的に展示公開し、正倉院宝物の魅力とその価値、「再現模造」製作事業の重要性とその意義、皇室にまつわる文化事業の意味などについて広く紹介することとした。

（3）政策の概要

正倉院事務所は、奈良時代より伝わる正倉院宝物の魅力を伝えるとともにその卓越した技術を後世に伝承すること及び災害等による消失への備えを目的として、「再現模造」の製作を進めてきた。同事務所における模造事業は、昭和47年から進めており、製作に当たっては、宝物が製作された当初の姿を再現することを目指して、各種の分析装置や光学機器を用いた調査を行うことに加え、各分野における有識者の先生方の意見を聴取し、材料・構造・技法にわたって限りなく原物に近いものを製作することに努めている。

今般、天皇陛下の御即位を始めとする皇室の御慶事を記念し、これまで製作されてきた数百点の作品の中から、代表的なものを2年間にわたり全国7か所の会場において展示した。

【会場】

奈良国立博物館（奈良県）

松坂屋美術館（愛知県）

沖縄県立博物館・美術館（沖縄県）

九州国立博物館（福岡県）

新潟県立近代美術館（新潟県）

北海道近代美術館（北海道）

サントリー美術館（東京都）

【会期】

令和2年7月4日（土）～同年9月6日（日）^{*1}

令和2年10月3日（土）～同年11月23日（月）

令和3年2月9日（火）～同年3月28日（日）

令和3年4月20日（火）～同年6月13日（日）

令和3年7月3日（土）～同年8月29日（日）

令和3年9月15日（水）～同年11月7日（日）

令和4年1月26日（水）～同年3月27日（日）

^{*1} 新型コロナウイルス感染症の影響により、会期を変更して開催（当初の会期 令和2年4月18日（土）～同年6月14日（日））。また、この影響により、令和2年7月18日（土）から開催予定だった松本市美術館（長野県）は、令和4年4月21日（木）～同年6月12日（日）の開催に変更された。

5 政策評価の観点

① 必要性

皇室に伝わる正倉院宝物の魅力や再現模造製作による日本の伝統文化継承の重要性について国民の理解を深めるという目的に照らし、本事業が必要であったかという必要性の観点から評価を実施

② 有効性

本事業の実施により、国民の正倉院宝物及び再現模造製作に対する理解の向上が図られたかという有効性の観点から評価を実施

③ 効率性

本事業の実施が効率的であったかの観点から評価を実施

6 政策効果の把握の手法及びその結果

（1）展覧会の来場者数

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、当初の予定からやむを得ず会期を変更した会場（8か所のうち1か所は令和4年度に延期）があったほか、全ての会場において感染予防対策を講じての開催となったが、2年間で7会場の開催が終了し、来場者数については以下のとおりとなった。

会 場	全国巡回事業		
	会 期	日 数	総入場者数
奈良国立博物館	令和2年 7月 4日 (土) ～ 9月 6日 (日)	56日	42,846人
松坂屋美術館	令和2年10月 3日 (土) ～ 11月 23日 (月)	52日	17,376人
沖縄県立博物館・美術館	令和3年 2月 9日 (火) ～ 3月 28日 (日)	41日	14,567人
九州国立博物館	令和3年 4月 20日 (火) ～ 6月 13日 (日)	49日	18,157人
新潟県立近代美術館	令和3年 7月 3日 (土) ～ 8月 29日 (日)	51日	15,331人
北海道立近代美術館	令和3年 9月 15日 (水) ～ 11月 7日 (日)	48日	26,251人
サントリー美術館	令和4年 1月 26日 (水) ～ 3月 27日 (日)	54日	31,455人
合計		351日	165,983人

(2) アンケート調査の実施

本事業の効果及び今後の検討課題を把握するため、アンケート調査を実施した。

[アンケートの方法及び結果]

各会場において、来場者に任意のアンケート調査を実施した。本アンケートは選択回答形式を採用し、会場内に掲示した二次元バーコードのリンクを経由した Google フォームによるインターネット調査と、同じく会場内に設置したアンケート用紙への記入による調査を行った。

アンケート結果総数は2,863件で、結果は別紙のとおりである。

7 学識経験を有する者の知見の活用に関する事項

本事業の効果及び今後の検討課題を把握するため、以下の学識経験者に意見を聴取した。

室瀬 和美 漆芸家 正倉院懇談会員

井上 洋一 奈良国立博物館館長 正倉院懇談会員

北村 繁 漆芸家

【学識経験者の意見の概要】

(1) 評価できる事項

- ① 北海道から沖縄まで全国7か所を巡回することで、宮内庁正倉院事務所が長年にわたり行ってきた模造製作事業を、全国民に広く知ってもらおう絶好の機会となった。
- ② 宝物自体の保存は「有形文化財」の保存として当然必要であるが、模造製作によって製作技術を解析・再現し、それを次世代に伝えることは「無形文化財」として捉えることができ、日本の文化継承に大きな財産となる。本展は、日本の伝統技術を継承することの意義を確認するための良い場となった。
- ③ 再現模造は、表面から観察したのみでは理解し難い素材や構造を始め、製作に必要な道具を推測した上で初めて製作ができる。これを「再現模造」という言葉を前面に押し出すことで、昨今のデジタル技術を活用した3Dプリンター等を用いた形状模造などとは一線を画すものとして提示することができた。
- ④ 展覧会図録の構成と内容も高く評価できる。

(2) 今後更に期待する事項

- ① 開催趣旨を若年層にも十分に理解してもらうためにも、会場には若年層向けの解説があってもよかったのではないか。アニメや動画を用いるなど、正倉院宝物や再現模造に知見のない子供でも興味を持てる展示が必要である。
- ② 英語版図録の作成など、本事業の重要性を世界に向けて発信していくことを期待する。
- ③ 伝統工芸や文化財を支える原材料、道具を取り巻く状況は、高齢化などによる人材不足や、原材料の枯渇などの理由により、年々厳しくなっている。今後の展覧会において、こうしたトピックについても触れ、国民と共に考える機会があれば良いのではないか。

- ④ 一連の巡回展期間が、新型コロナウイルス感染症の拡大による行動制限が入館者数に影響を及ぼしたばかりでなく、通常であれば実施できる講演などの附帯事業が実施できなかったことは、非常に残念であった。今後の社会状況を見極めながら、関連する展覧会においての出陳と、付随する普及活動が実施されることを期待する。

8 政策評価に使用した資料等

- ①各会場の来場者数
- ②展覧会についての来場者アンケート結果
- ③学識経験を有する者の知見

9 政策評価の結果

(1) 必要性の観点からの評価

アンケート結果によると、今回の展覧会を鑑賞しようとしたきっかけとして、66.1%が「以前から正倉院宝物に興味があった」と回答した（問5参照）。一方でこれまでに正倉院宝物の実物を見たことがあると回答した来場者は30.9%に過ぎず、多くの来場者がこれまでに実物を見たことがないという結果であった（問1参照）。

これは、ぜい弱な正倉院宝物が、厳しい制限下でしか展示公開できないということを裏付ける結果ともいえるが、今般の展覧会において、極めて忠実に再現された再現模造を積極的に公開することにより、各地において広く正倉院宝物の魅力を伝えることができたと言える。

また、再現模造が宝物の滅失を防ぎ、伝統の継承に効果があるかどうかについて、「効果がある」という回答が94.6%となった（問6参照）。

以上のことから、再現模造巡回事業を全国で展開したことは、多くの国民に対し、再現模造製作による日本の伝統文化継承の重要性について一層の理解を深められ、コロナ禍による行動制限がありながら約16万5千人の来場者数を記録した点からも、本事業が必要性の高いものであったと言える。

(2) 有効性の観点からの評価

令和2年7月から令和4年3月にかけて、7会場にわたって行われた本展覧会の総来場者数は165,983人であった（351日間）。

アンケート結果によると、展覧会の満足度について、「非常に満足」「やや満足」の合計が94.6%（問3参照）、新たな再現模造が展示される機会があれば来場したいかを問う設問には「来場したい」「目当ての再現模造があれば来場したい」の合計が94.5%（問4参照）と肯定的な回答が9割を超えた。これは、再現模造が、多くの国民に重要なものとして受け入れられていることを裏付ける結果と言える。

また、模造品を展示することの考えについてのアンケート回答において、「宝物の当時の姿が偲ばれた」に69.0%、「技術力に驚いた」に74.5%、「実物も見たくな

った」に68.5%の回答があったことから、正倉院宝物を忠実に再現した再現模造製作事業について、理解の向上を図ることができたと言える。

また、有識者からの意見として、模造製作によって製作技術を解析・再現し、それを次世代に伝えることは「無形文化財」として捉えることができ、日本の文化継承に大きな財産となるため、本展は、日本の伝統技術を継承することの意義を確認する良い場となったとの評価を得ているところである。

以上より、コロナ禍による会期変更などがありながらも多くの来場者を迎えることができたことに加え、また機会があれば来場したいという意見が多数寄せられたことから、本事業は、非常に有効性の高いものであるとすることができる。

(3) 効率性の観点からの評価

本事業の巡回展示に際して、当庁は「再現模造」及び関連情報の提供等を行ったが、展示会場の運営については、当庁と共に主催する博物館・美術館が担っている。

また、本事業の広報については、アンケート結果からも新聞・雑誌やテレビによる紹介等で知ったという来場者が多かったが（問2参照）、これは報道機関による広報及び会場となった博物館・美術館の広報活動によるものである。

なお、当庁ホームページにて本事業の紹介を行っているが、これについては通常業務の範囲内である。

以上より、再現模造製作事業の重要性とその意義について紹介するに当たり、当庁としては特段の費用負担は行わずに実現できたものである。したがって、費用対効果という観点では、効率的なものであったと考える。

(4) 今後の課題

アンケート回答者の世代分布から、本展は世代に偏りなく観覧されていることが分かるが（問8参照）、有識者からの意見にもあったとおり、今後の展示においては動画やアニメを導入するなど、若年層へ向けた展示方法を工夫していく必要がある。

また、これとは別に、来場者からは、「実物の写真をもっと展示して欲しい」といった意見が寄せられた。今後は、実物の写真も併せて展示し、経年による変化の様子等も分かるような展示としていきたい。

さらに、英語版図録の作成など、国内のみならず世界に向けた発信をしていく必要があるほか、再現模造製作について展覧会だけではなく、広く周知をしていく必要がある。具体的には、当庁ホームページでの模造作品の紹介などを検討していく。

【アンケート結果】

問1 これまでに正倉院宝物を見たことがありますか。(複数回答可)

イ) テレビ・雑誌で見た	1,108	38.7%
ロ) 教科書で見た	1,271	44.4%
ハ) 正倉院展で見た	662	23.1%
ニ) 正倉院展以外の展覧会で見た	224	7.8%
ホ) 見たことがない	756	26.4%

問2 今回の展覧会をなにで知りましたか。(複数回答可)

イ) 新聞・雑誌	1,023	35.7%
ロ) テレビ	849	29.7%
ハ) インターネットの広告	308	10.8%
ニ) 博物館のチラシ	823	28.7%
ホ) 博物館のホームページ	381	13.3%
ヘ) 宮内庁のホームページ	19	0.7%
ト) 家族, 友人等の紹介	530	18.5%

問3 今回の展覧会の満足度を教えてください。

イ) 非常に満足	1,844	64.4%
ロ) やや満足	865	30.2%
ハ) やや不満足	113	3.9%
ニ) 非常に不満足	29	1.0%
(無回答 12)		

問4 正倉院事務所では、引き続き宝物の模造事業に取り組んでいます。今後、新たな再現模造が展示される機会があれば、展覧会に来場したいですか。

イ) 来場したい	2,440	85.2%
ロ) 来場したくない	25	0.9%
ハ) 目当ての再現模造があれば来場したい	266	9.3%
ニ) わからない	113	3.9%
(無回答 19)		

問5 今回の展覧会を鑑賞しようと思った理由を教えてください。(複数回答可)

イ) 以前から正倉院宝物に興味があったから	1,893	66.1%
ロ) 再現模造の技術力に興味があったから	1,188	41.5%
ハ) 宝物(実物)では実現困難な点数の展示があるから	717	25.0%
ニ) 歴史全般に興味があるから	1,177	41.1%
ホ) 家族, 友人, 先生等から勧められた, 良い評判を聞いたから	267	9.3%
ヘ) アクセスの良い博物館で 開催されているから	634	22.1%
ト) 家族, 友人等に誘われたから	317	11.1%
チ) その他	162	5.7%

問6 再現模造は宝物の滅失を防ぎ、伝統の継承に効果があると考えますか。

- | | | |
|----------|-------|-------|
| イ) 効果がある | 2,708 | 94.6% |
| ロ) 効果がない | 18 | 0.6% |
| ハ) わからない | 118 | 4.1% |
| (無回答 19) | | |

問7 本展は模造品の展示であるため、より多くの地域に巡回展示する計画を可能にしました。このように模造品を展示することについて、どのように考えますか。(複数回答可)

- | | | |
|----------------------|-------|-------|
| イ) 宝物の当時の姿が偲ばれた | 1,975 | 69.0% |
| ロ) 実物も観たくなった | 1,960 | 68.5% |
| ハ) 技術力に驚いた | 2,134 | 74.5% |
| ニ) 各地域での巡回展には意義がある | 1,593 | 55.6% |
| ホ) 完成度が低かった | 29 | 1.0% |
| ヘ) 実物を観ないと意味が無い | 73 | 2.5% |
| ト) あまり各地域へ持ち出すべきではない | 24 | 0.8% |

問8 あなたの年代について教えてください。

- | | | |
|------------|-------|-------|
| イ) 20歳未満 | 320 | 11.2% |
| ロ) 20歳～39歳 | 545 | 19.0% |
| ハ) 40歳～59歳 | 1,051 | 36.7% |
| ニ) 60歳～79歳 | 865 | 30.2% |
| ホ) 80歳以上 | 82 | 2.9% |